

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調書

(1) 取組名	「富士山の世界遺産」官民協働広域連携事業		
(2) 実施団体名	富士河口湖地域活性化推進協議会	(3) 対象地域	山梨県南都留郡富士河口湖町
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体名	

(6)実施した取組の内容	取組①	富士山世界遺産登録における官民連携BDF活用&特産品開発実証事業	
	実施主体	富士河口湖地域活性化協議会	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<p>・実施内容:環境負荷の少ないBDF活用の実証実験。余った廃食油、BDF化の過程で発生したグリセリンの石鹼化の研究開発。</p> <p>・実施時期:平成20年10月～平成21年2月</p> <p>・取組の目的:環境負荷の少ないBDF活用の実証を行うことで、世界遺産登録後の環境保全、産業育成、及び環境教育を展開する。また、余った廃食油、BDF化の過程で発生したグリセリンを石鹼化の研究開発し、この石鹼を「富士山ブランド」として位置づけ、観光業者等と連携し、活用方法について検討・実証を展開する。</p>	<p>・実施内容:環境負荷の少ないBDF活用の実証実験。余った廃食油、BDF化の過程で発生したグリセリンの石鹼化の研究開発。</p> <p>・実施時期:平成20年10月～平成21年2月</p> <p>・取組の結果:管内給食センター・保育所・リサイクルセンターを月1回廃食油を回収し、BDFを精製し公用車に利用することにより、燃料費等の削減や環境保全にわずかではあるが貢献できた。今後、廃食油を利用した実験を小学生などに体験してもらいながら環境教育を展開し資源の大切をPRし循環型社会の構築を推進する。・残物利用については、BDFに含まれる成分であるメタルが多いため除去できない状況である。・菜種の廃油がなかったため、植物の廃油を使用した。・泡立ちや固まり方が異なるため、廃油キャンドルとしては使用できなかった。・菜種油については、保湿効果があり精製の精度がよくなければ原料臭が強い。そのため、スキンケアや化粧水に利用することは難しい状況である。</p>
	取組②	ぐるり・富士山風景街道の推進	
	実施主体	富士河口湖地域活性化協議会	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		<p>実施内容:地域内の耕作放棄地を活用したBDF循環システムの構築及び耕作放棄地を利用した菜の花の実験栽培を展開する。</p> <p>実施時期:平成20年10月～平成21年2月</p> <p>取組の目的:地域内の耕作放棄地を活用した『景観形成』『新たな地域ブランド製品の創出』『地域内BDF循環の促進』『地域内BDF利用車両の増加』を実現する。</p>	<p>実施内容:地域内の耕作放棄地を活用したBDF循環システムの構築及び耕作放棄地を利用した菜の花の実験栽培を展開する。</p> <p>実施時期:平成20年10月～平成21年2月</p> <p>取組の結果:耕作放棄地については、耕運、種まきは終了しているが、菜の菜咲く時期が4月中旬ごろになるため、雑草除去等していきながら、関係機関と連携しながら景観形成につなげていきたい。</p>
	取組③	富士山の世界遺産に基づく富士河口湖地域の活性化に係る事業化プログラムの検討	
実施主体	富士河口湖地域活性化推進協議会		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	<p>実施内容:「富士北麓地域グランドデザイン」の策定、外国人観光客も閲覧可能な多言語化によるパンフレット(ガイドブック)の作成、DVDの制作</p> <p>実施時期:平成20年10月～平成21年2月</p> <p>取組の目的:平成23年度の富士山の世界文化遺産登録を大きな目標に掲げつつ、登録後の開発・保全両面からの視点も踏まえた官民協働による地域活性化を目指すための推進・実践するためのプログラムを検討し、世界遺産登録の地域全体の機運を高め、観光客や地元住民等への啓発・普及を促進させる。</p>	<p>実施内容:「富士北麓地域グランドデザイン」の策定、外国人観光客も閲覧可能な多言語化によるパンフレット(ガイドブック)の作成、DVDの制作</p> <p>実施時期:平成20年10月～平成21年2月</p> <p>取組の結果:富士山の世界遺産登録後のグランドデザインの策定に向けて、環境保全と地域活性化に寄与する官民協働事業を以下のとおり抽出し、その実現可能性の検討を行ない、再評価しながら実践するためのプログラムを策定中である。</p> <p>①地域の発展と世界遺産に相応した環境保全事業の推進(景観形成推進事業、資源再利用による地域ブランド戦略展開事業)</p> <p>②自然と共生した観光振興による地域活性化事業の推進(登山路及び眺望整理、管理体制、外国人来訪者受入れ体制事業)</p> <p>富士山文化遺産登録に向け、住民、外国人観光客にも閲覧可能な多言語化のパンフレット作成及び官民協働による地域活性化による取組などをDVDとして各関係機関、イベント等幅広い広報活動を展開しながら富士山文化遺産登録を目指す。</p>	

(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担		取組の実施を踏まえた反省点	
	富士河口湖地域活性化推進協議会を立上げ、おのおの役割分担を明確にすることにより、スムーズな運営ができた。		富士山の世界遺産登録に向けて、策定作業をすすめているところですが、総合的な意見交換をし協議会メンバーと更なる連携をかりながら、地域活性化に取組む必要がある。	
(8)取組により得られた成果	○成果1→	観光客入り込み客数		
		H19	H20(当初予定していた目標)	
		12.5/年間万人	12.8/年間万人	
		H20(実際に得られた成果)		
		今年度後半からの不況のあおりを受け大きな増加は期待できないものの、H20年度中の年間観光客数は調査している段階ではあるが、地元の受け入れ態勢の意識の強化は進んでいる。これまでにあった世界文化遺産登録により産業振興の足かせになるという考え方から、世界遺産登録を活用した観光振興に向けた意識改革が今回の元気再生事業に取り組んだことにより得られた。		
	○成果2→	環境保全と産業育成に向けたBDFの活用		
	H19	H20(当初予定していた目標)		
	0ℓ/年間	6000ℓ/年間		
	H20(実際に得られた成果)			
	今回の元気再生事業の取組により、具体的なBDF活用への道筋を得ることが出来た。これまで捨てられていた給食からの廃食油をモデル的にBDF化することができ、10月～1月の間に4,780ℓのBDF化に取り組むことが出来た。今後は、より実用化に向けたBDFの規格の向上への取組みを展開していく予定であるため、元気再生事業での立ち上がり段階の支援が有効に機能した。			

<p>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<p>取組み内容については、政府の目指す立ち上がり段階の支援として有効に機能していたと考えられる。立ち上がり支援という立場からも、当初想定していたものとは別の課題や想定していなかった成果も得られたことは、地方の元気再生につながった。具体的には、BDFの精製によりBDFを自動車に利用するためには、燃焼力を研究する必要があることや、石鹼製造においては臭いの課題も発見することができた。また、プロモーション用のDVDを制作することで、若い女性が農業に興味があることや古い歴史に興味を持っていることも知ることができ、富士山世界遺産紹介用のパンフレットを作成することで、今後は国内だけではなく海外にも世界遺産の取組みを紹介できるツールが出来上がった。このような多くの成果を活用しながら、世界遺産に取り組む地域として国内外に環境と観光と歴史文化を積極的にPRしていき、まちづくりに取り組む土壌が出来たことが最大の成果であり、今後改善しながら活用しまちづくりに取り組んでいきたい。</p>	
<p>(10)平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開 環境負荷の少ないBDF普及啓蒙推進</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度 旅館組合の協力を得ながら、廃食油を回収し、送迎用のマイクロバスにBDF利用してもらい観光客に環境保全に取り組んでいることをPRする。また当町の冬は氷点下になるため、エンジンのかかりがわるいため、改善策が必要となる。 〔活用を希望する制度：無し〕</p>
	<p>遊休農地へ菜の花植栽</p>	<p>ぐるり・富士山風景街道加入市町村と連携を図りながら、菜の花植栽運動を展開する。 〔活用を希望する制度：無し〕</p>
	<p>環境教育</p>	<p>廃食油から、できる製品を小学生を通じて体験してもらい資源のリサイクル及び環境問題を理解してもらおう機会の場を提供する。 〔活用を希望する制度：無し〕</p>
	<p>残物及び菜種油石鹼等ブランド化について</p>	<p>残物及び菜種油石鹼等ブランド化 実施主体：富士河口湖地域活性化協議会 残物からの石鹼については、メタノールの成分が多いため、精製過程や除去方法について時間を費やし研究していかなければならない。また菜種油については100%使用した他場合は安定性が悪いため、他の油や脂肪酸と混合して安定性の良いものにしていかなければならないが、更なる調査・研究が必要となる。 〔活用を希望する制度：上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額300万円)〕</p>

主な実施取組の内容

取組 : 富士山世界遺産登録における官民連携BDF活用 & 特産品開発実証事業

実施主体: 富士河口湖地域活性化協議会

実施内容・結果: 環境負荷の少ないBDF活用の実証を行うことで、世界遺産登録後の環境保全・産業育成及び環境教育を展開する。NPO法人グリーンエネルギーに委託し、管内給食センター・保育所・リサイクルセンターから廃食油を回収し、BDF燃料へ精製し送迎バスの燃料として活用する。又、余った廃食油・BDF精製の過程で発生した残物・菜種の3種のブランド石鹸の研究開発を松山油脂にて実施した。



BDF製造機



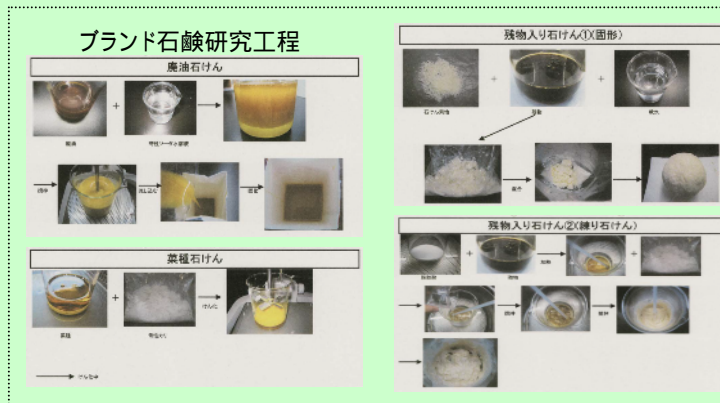
BDF製造過程



BDF燃料



BDF燃料送迎バスへの利用



取組 : ぐるり・富士山風景街道の推進

実施主体: 富士河口湖地域活性化協議会

実施内容・結果:

「取組」における菜の花の地元での生産(次年度以降)を視野に、地域内の耕作放棄地を活用した「景観形成」「新たな地域ブランド製品の創出」「地域内BDF循環の促進」「地域内BDF利用車両の増加」を実現することを主目的とする。地域内でのBDF循環システムの構築を目指し、景観上問題となっている遊休農地での菜の花の実験栽培を展開する。耕作放棄地については、耕運・種蒔きも終え、4月中旬に咲く予定であるが、雑草除去等していきながら関係機関と連携しながら景観形成につなげていきたい。



耕運(上)・種蒔き(下)の様子



取組 : 富士山の世界遺産に基づく富士河口湖地域の活性化に係る事業化プログラムの検討

実施主体: 富士河口湖地域活性化協議会

実施内容・結果: 平成23年度の富士山の世界文化遺産登録を大きな目標に掲げつつ、登録後の開発・保全両面からの視点も踏まえた官民協働による地域活性化を目指すための推進・実践するためのプログラムを検討する。富士山の世界遺産登録後のランドデザインの策定に向け、環境保全と地域活性化に寄与する官民協働事業を抽出し、その実現性の検討を行い、再評価しながら実践するためのプログラムを策定中である。

地域の発展と世界遺産に相応した環境保全事業の推進

自然と共生した観光振興による地域活性化事業の推進

取組実施による成果・今後の展開

取組実施による成果: 成果 = 今年度後半からの不況のあおりを受け大きな増加は期待できないものの、地元の受け入れ態勢の意識強化は進んでいる。

成果 = これまで廃棄されていた廃食油をモデル的にBDF化することができた。今後はより実用化に向けたBDFの規格の向上を展開する。

今後の展開: 環境負荷の少ないBDF普及啓蒙推進・旅館組合の協力を得ながら、訪れた観光客への環境保全の取り組みをPRする。又、冬期の課題の改善も行う。

遊休農地へ菜の花植栽・ぐるり富士山風景街道加入市町村と連携を図りながら、菜の花植栽運動を展開する。

環境教育・廃食油からできるBDF燃料を小学生を通じて知ってもらい、資源のリサイクル及び環境問題を理解してもらおう機会の場を提供する。

残物及び菜種油石鹸等のブランド化・3種のブランド石鹸化においては、引き続き更なる調査・研究が必要となる。